

JAバンク新潟における地域密着型金融の取組状況について (平成22年度)

JAバンク新潟(新潟県下JAとJAバンク新潟県信連)では、農業と地域社会に貢献するため、平成22～24年度JAバンク新潟中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

平成22年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

目次

| | |
|--|--------|
| 1 農山漁村等地域の活性化のための融資を始めとする支援 (JAバンク新潟の農業メインバンク機能強化への取組み) | ・・・P2 |
| 2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援 | ・・・P5 |
| 3 経営の将来性を見極める融資手法を始め、担い手に適した資金供給手法の提供 | ・・・P7 |
| 4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等 地域育成への貢献 | ・・・P7 |
| 5 取組事例 | |
| JA新潟市「農業体験作文コンクール」 (JAバンク食農教育応援事業) | ・・・P10 |
| JA十日町「どろんこキッズスクール」 (JAバンク食農教育応援事業) | ・・・P11 |
| JAひすい「親子農業体験教室」 (JAバンク食農教育応援事業) | ・・・P12 |
| JAバンク新潟県信連「戸別所得補償対応商品の創設」 | ・・・P13 |
| JAバンク新潟県信連 「平成22年度緊急農業経営安定対策資金の創設」 | ・・・P14 |

1 農山漁村等地域の活性化のための融資を始めとする支援 (JAバンク新潟の農業メインバンク機能強化への取組み)

JAバンク新潟は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

JAバンク新潟は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

平成23年3月末時点のJAバンク新潟の農業関係資金残高(注1)は813億円(うち農業経営向け貸出金516億円)、日本政策金融公庫等の受託貸付金(注2)残高は340億円を取り扱っています。

(注1) 農業関係の貸出金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

(注2) JAバンクが農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。受託貸付金残高には、JA転貸分を含みます。

【営農類型別農業資金残高】 (単位：百万円)

| 営農類型 | 平成23年3月末現在 |
|----------|------------|
| 農業 | 51,621 |
| 穀作 | 22,666 |
| 野菜・園芸 | 3,864 |
| 果樹・樹園農業 | 1,093 |
| 工芸作物 | 449 |
| 養豚・肉牛・酪農 | 1,542 |
| 養鶏・鶏卵 | 415 |
| その他農業 | 21,590 |
| 農業関連団体等 | 29,755 |
| 合計 | 81,376 |

(注)

1 農業関係の貸出金とは、農業者、農業法人および農業関連団体等に対する農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

2 「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が従となる農業者等が含まれています。

3 「農業関連団体等」には、JAや全農とその子会社等が含まれています。

【資金種類別農業資金残高】 (単位：百万円)

| 種類 | 平成23年3月末現在 |
|---------|------------|
| プロパー資金 | 59,693 |
| 農業制度資金 | 21,683 |
| 農業近代化資金 | 5,113 |
| その他制度資金 | 16,569 |
| 合計 | 81,376 |

(注)

- 1 プロパー資金とは、JA・信連原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。
- 2 農業制度資金には、地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、地方公共団体が利子補給等を行うことでJA・信連が低利で融資するもの、日本政策金融公庫が直接融資するものがあり、ここではの転貸資金とを対象としています。
- 3 その他制度資金には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

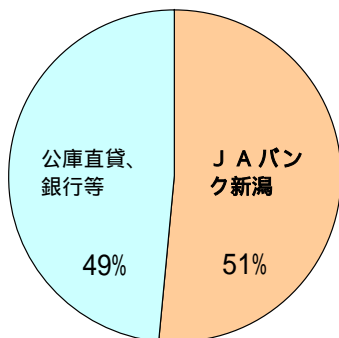
【農業資金の受託貸付金残高】 (単位：百万円)

| 種 類 | 平成23年3月末現在 |
|------------|------------|
| 日本政策金融公庫資金 | 34,014 |
| そ の 他 | 2 |
| 合 計 | 34,016 |

(注) JAバンク新潟では、主にJAを窓口として日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

JAバンク新潟は主要な農業関係の制度資金である、日本政策金融公庫資金の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【新潟県の日本政策金融公庫 受託貸付金取扱残高のシェア】



平成23年3月末時点

出所：日本政策金融公庫 農林水産事業
「業務統計年報」

(2) 担い手のニーズに応えるための体制整備

JAバンク新潟では、地域の農業者との関係を強化・振興するための体制整備に取り組んでいます。

県下26JAでは、本支店に設置された51人の「担い手金融リーダー」と100人の「農業融資相談員」(平成22年4月時点)を中心に、農業融資に関する訪問・資金提案活動を実施しています。

信連では、「県域農業金融センター機能」を整備するために農業部を設置し、JAにおける農業融資機能の強化に向けた取組みをサポート(農業者からの相談のバックアップ、JAとの協調融資など)しています。

(3) JA内事業間連携の強化

農業者の多様なニーズにJAをあげて応えていくため、営農・経済事業等との合同会議・研修会の開催や農業者への同行訪問等により、これまで以上に、JA内事業間連携を強化しています。

| 具体的取組事例 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 中央会や全農にいがたが主催するJAの営農・経済事業担当職員を対象とした研修会において、農業資金に関する知識を習得するための講義を実施。 |
| <ul style="list-style-type: none"> JAの信用担当職員と営農・経済事業担当職員を対象としたセミナー・情報交換会の開催に向けて、全農にいがたとの協議を実施。(全農にいがたとの共催による「第1回農業融資相談員・TAC(出向く担当者)連携強化セミナー」を平成22年7月に実施。) |

(4) 6次産業化に向けた農商工連携の推進

JAバンク新潟では、中央会、全農などと連携し、生産者・JAと加工流通業者との商談会の開催など、農業6次産業化に向けた農商工連携に取り組んでいます。

【商談会等開催状況】

| 商談会名 | 開催日 | 主催者 | 参加団体数 |
|---------------|--------------------------------------|-----------|-------|
| 農商工連携マッチングフェア | 平成23年 2月7日 2月8日 2月14日 2月21日 | 新潟県商工会連合会 | 204団体 |

信連では、農商工連携を促進する一環として、フリーペーパー形式の情報誌「Solo! にいがた」(そーれ! にいがた)を平成22年7月15日に創刊しました。

取引先の県内農業生産法人や食品加工業者の取組み等を誌面で紹介し、農商工連携の促進・地域活性化・ビジネスチャンスの創出支援を目指しています。毎号約2万部を発行(季刊発行)し、県下JAの店舗のほか、商工会議所、道・まちの駅、スーパー、ホテルなど県内約250ヶ所で設置・配布しております。また、信連のホームページに専用ページを開設しており、バックナンバーをご覧いただけます。

(5) 生産者と消費者をつなげる場の設置

JAバンク新潟では、新潟県生活協同組合連合会、新潟県森林組合連合会、新潟県漁業協同組合連合会、新潟漁業協同組合、新潟県酪農業協同組合連合会、JA全農にいがた、JA共済連新潟、JA新潟中央会との共催により、「生産と消費を結ぶ虹の架け橋」をスローガンとして、「第12回協同組合まつり」(平成22年10月31日、新潟市産業振興センター)を開催し、11,514名の方にご来場いただきました。

会場では県内農畜産物等の紹介・直売や県内農産物を材料とした食事の提供、ステージイベント等、好評を博しました。

2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援

J Aバンク新潟は、担い手をサポートするため、ライフサイクルに応じて、次の取り組みを行っています。

(1) 新規就農者の支援

J Aバンク新潟では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、就農支援資金などを取り扱っています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱い実績】 (単位:件、百万円)

| | 平成22年度 実行件数 | 平成22年度 実行金額 | 平成23年3月末 残高 |
|-------------|----------------|----------------|----------------|
| 就農支援資金(転貸) | 4 | 8 | 176 |
| 新規参入者経営安定資金 | 1 | 2 | 7 |
| 合計 | 5 | 11 | 184 |

(2) 経営不振農家の経営改善支援

J Aバンク新潟では、経営不振農家の経営改善に向けて、関係機関と連携して積極的に取り組んでいます。

【平成22年度の農業者の経営改善支援等の取り組み実績】 (単位:先)

| | 期初経営改善支援取組先 A | Aのうち期中に再生計画を策定した先数 a | Aのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 b | Aのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 c | 事業計画策定率 = a / A | ランクアップ率 = b / A | |
|-------|---------------|----------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------|--------------------|-------|
| | | | | | | | |
| 正常先 | 43 | 5 | | 37 | 11.6% | | |
| 要注意先 | うち その他要注意先 | 126 | 18 | 8 | 81 | 14.3% | 6.3% |
| | うち要管理先 | 11 | 0 | 3 | 4 | 0.0% | 27.3% |
| 破綻懸念先 | 50 | 9 | 8 | 34 | 18.0% | 16.0% | |
| 実質破綻先 | 66 | 10 | 6 | 46 | 15.2% | 9.1% | |
| 破綻先 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0.0% | 0.0% | |
| | 小計(~ の計) | 254 | 37 | 25 | 166 | 14.6% | 9.8% |
| | 合計 | 297 | 42 | 25 | 203 | 14.1% | 8.4% |

(3) 講演会・セミナー等の開催

J Aバンク新潟では、新潟県農業の担い手として活躍している農業法人等、大規模農業者の一層の発展に向けた経営安定化支援策の一環と、参加者同士の情報交換、ネットワークづくりの場を提供することなどを目的として、平成19年度から農業法人経営者セミナーを開催しています。

| | |
|-------|--|
| セミナー名 | 第4回農業法人経営者セミナー |
| 開催日 | 平成23年2月4日 |
| 参加対象者 | 農業法人等 |
| 参加者数 | 約150名 |
| 主催者 | 新潟県信連 |
| 講演内容 | <p>【第一部】 「お客様と時代が求める商品を追求して」 マルシン食品株式会社 代表取締役社長 新保 清久 様</p> <p>【第二部】 「食品スーパーが目指すもの」 原信ナルスロジック株式会社 商品本部商品開発部長 小林 敏夫 様</p> |

信連では、融資先のお取引先様を招いた講演会や情報交換会を開催し、異業種間の情報交流を促進しています。

【講演会・セミナー開催実績】

| 講演会名 | 参加対象者 | 参加団体数 | 内容 |
|--------------------------------------|-------------|-------|---|
| 第23回信連融和会 定例総会講演会 (平成22年7月15日) | 信連 融資取引先 | 72社 | 講師：健康社会学者 河合 薫 様 テーマ：「ちょっとした工夫で、少しでも 元気に！～カラダと環境のつながり～」 |
| 平成22年度経済・ 金融セミナー (平成22年11月10日) | 信連 融資取引先 | 58社 | 講師：農林中金総合研究所 阮 蔚 様 王 雷軒 様 テーマ：「中国経済の現状と展望」 |

3 経営の将来性を見極める融資手法を始め、担い手に適した資金供給手法の提供

J Aバンク新潟では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) 負債整理資金の提供による軽減支援

J Aバンク新潟では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【平成22年度負債整理資金の貸出実績】 (単位：件、百万円)

| 資金名 | 実行件数 | 実行金額 | 平成23年3月末 残高 |
|--------------|------|------|----------------|
| 農家経済再建資金 | 44 | 223 | 4,841 |
| 土地改良負担対策資金 | 15 | 169 | 4,236 |
| 日本政策金融公庫資金 | 5 | 16 | 763 |
| 畜産特別資金 | 7 | 52 | 383 |
| 農業経営負担軽減支援資金 | 0 | 0 | 84 |
| その他 | 3 | 21 | 544 |
| 合計 | 74 | 481 | 10,855 |

- ・ 農家経済再建資金は、災害、疾病その他やむを得ない事情により生じた負債の借換資金であり、県内J Aにおいて取り扱っています。
- ・ 土地改良負担対策資金は、土地改良区等に対し年償還額の合計が一定額（平準化目標額）以上となる部分について融資を行い、後年に繰り延べすることにより償還の平準化を図るための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。
- ・ 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利による借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。
- ・ 農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

J Aバンク新潟では、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っています。

(1) 災害被災者への支援

J Aバンク新潟では、猛暑等による平成22年産米への影響に対する緊急対策として「平成22年度緊急農業経営安定対策資金」を創設し、農業専門金融機関として、農業者に対する円滑・迅速な資金対応に努めています。

また、平成23年4月には長野県北部を震源とする地震等により被害を受けた農業者への対応として「平成23年地震災害等復旧支援資金」をいち早く創設しております。

(単位：件、百万円)

| 資金名 | 取扱ＪＡ | 実行件数 | 実行金額 | 平成23年3月末 残高 |
|------------------------|--------|-------|-------|----------------|
| 平成22年度緊急農業 経営安定対策資金 | 県下26ＪＡ | 1,455 | 1,698 | 1,686 |

(2) ＪＡバンク食農教育応援事業の展開

ＪＡバンク新潟は、地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、ＪＡバンク食農教育応援事業を展開し、農業に関する教材「農業とわたしたちの暮らし」の無償配布などに取り組んでいます。

教材「農業とわたしたちの暮らし」は、県下の小学校等512校へ約35,400セット配布され、学校の授業等において活用されています。

また、県下ＪＡでは、次のような食農教育などの実践活動に取り組んでおり、これらの取組みに対して、ＪＡバンクアグリ・エコサポート基金および信連から費用助成を行ってサポートしています。

【ＪＡバンク食農教育応援事業による主な活動内容】

(平成22年度)

| ＪＡ名 | 活動名 | 活動内容 |
|----------|-------------|---|
| ＪＡ新潟市 | 農業体験作文コンクール | 地域の小中学校、特別支援学校を対象に、農業体験学習「学校教育田」の実体験に基づいた作文コンクールを農業祭において開催。 |
| ＪＡにいがた岩船 | 農業体験学習文集贈呈 | 学校田等農業体験学習などを題材にした作文の文集を作製し、対象の学校に贈呈。食への関心、食を支える農の役割などの教育を行った。 |
| ＪＡ中条町 | 米粉調理実習 | 地域の小中学校を対象に米粉の調理実習を実施し、農業・食料への理解を深めた。 |
| ＪＡ新潟みらい | あぐりスクール | 地域の小学校5～6年生を対象に、年間を通して(5回コース)農畜産物の収穫体験や調理実習などを実施し、農業と食への理解を深めた。 |
| ＪＡ新津さつき | 昔ながらの米づくり | 秋葉区産業振興課と協力し、小学生親子を対象に新潟市指定文化財「はさ木並木」を活用して、田植え、稲刈り、はさ掛け作業などの体験学習を実施。「昔ながらの米づくり」を通して食料の大切さと環境保全を次世代に伝える取組みを実施。 |
| ＪＡ羽茂 | 保育園もちつき大会支援 | 保育園の園児を対象に、もちつき大会の指導・支援を実施。 |
| ＪＡ越後ながおか | 農業体験かべ新聞 | 小学校で取り組んだ農業体験の理解を深めるため、かべ新聞を作成し、農業祭での掲示を実施。 |
| ＪＡ魚沼みなみ | 夏休みこども料理教室 | 食と農業への理解促進を目的に、夏休みを利用して地域の小学校13校を対象に料理教室を実施。 |

| ＪＡ名 | 活動名 | 活 動 内 容 |
|---------|-------------|--|
| ＪＡ十日町 | どろんこキッズスクール | 地域の小学校５～６年生を対象に、年間７回シリーズで農業・調理体験スクールを実施。 |
| ＪＡ津南町 | どろんこ学習 | 地域の小中学校が行う食農教育活動（花卉・野菜栽培学習、学校田）に対して、指導、活動費助成を実施。 |
| ＪＡえちご上越 | ちゃぐりん道場 | 地域の小学生を対象に、トウモロコシなどの定植・収穫体験、調理実習を実施。 |
| ＪＡひすい | 親子農業体験教室 | 地域の親子を対象に、枝豆、スイカ、トウモロコシなどの植え付けから収穫、調理などの農業体験スクールを実施。 |

（３）地域への貢献活動

ＪＡバンク新潟では、地域社会の一員として、文化、スポーツ、社会福祉、環境などの分野で幅広い貢献活動を展開しています。

信連では、次のような活動に取り組んでいます。

公益信託「ＪＡバンク新潟県信連創立５０周年記念・ホームヘルパー支援基金」新潟県内の社会福祉法人やボランティア団体等を助成対象者として、ホームヘルパーの活動および当該活動を支援する設備等に対して助成。

「県内移動少年野球教室」への特別協賛

新潟県野球連盟が主催する「県内移動少年野球教室」への特別協賛を実施。元プロ野球選手を講師として招き、小学生の軟式野球チームを対象として県内各地で開催。

「松竹大歌舞伎」公演への特別協賛および県内在住留学生の招待

財団法人新潟県文化振興財団が主催する「松竹大歌舞伎」公演への特別協賛を実施するとともに、文化交流の振興を支援するため、県内在住留学生を公演に招待。

エコキャップ運動への参加

ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届ける活動に参加。

環境への取組み

ＪＡ新潟ビル内の照明のＬＥＤ照明への切替えによる省エネ化の推進。また、業務車両へのエコカーの導入、「クールビズ」や「ノー残業デー」の実施など、地球温暖化防止対策、節電への取組みを積極的に実施。

5 取組事例

農業体験作文コンクール

J A 新潟市

| | |
|----------|--|
| 1. 趣旨 | 小中学生等に、「学校教育田」の体験と、その体験等を作文にしてコンクールへ応募してもらうことにより、農業と食への理解を深めてもらうことを目的に実施。 |
| 2. 概要 | 地域の小学校、中学校、特別支援学校に対して、農業体験学習「学校教育田」の指導・支援を行うとともに、その体験等の作文を募集し、優秀作品をJAの農業祭において表彰する。 |
| 3. 成果 | <ul style="list-style-type: none">・ 小学校16校、中学校1校、特別支援学校1校が学校教育田を実施。・ 学校教育田実施学校のうち、小学校15校、中学校1校、特別支援学校1校から、総計799点の作文の応募を受けた。・ 最優秀賞1点、優秀賞5点、奨励賞20点を選定し、最優秀賞、優秀賞の受賞者の表彰式を農業祭において実施。 |
| 4. 今後の予定 | 次年度についても同様の内容で作文の募集を予定。 |



学校教育田での稲刈り体験



農業祭での表彰式

| | |
|-----------------|--|
| <p>1. 趣旨</p> | <p>地域の小学校5～6年生を対象に、農業や調理体験などを通じて農業への理解、食への関心を高めてもらうことを目的に実施。</p> |
| <p>2. 概要</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 開校式、田植え体験、田んぼの看板作り ・ 田んぼの生き物調査 ・ 地元食材を使ったカレーライス作り ・ 牧場での牛の観察会、ホットドッグ作り、アイスクリーム作り ・ 稲刈り、収穫パーティー ・ カントリーエレベーター見学、花卉野菜集荷センター体験、昔ながらの精米にチャレンジ ・ 修了式、おにぎりとおにぎりの野菜でコロケ作り、修了パーティー |
| <p>3. 成果</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 19名が参加し、年7回実施。 ・ 5月に自分たちで植えた稲を秋に収穫し、そのお米を昔ながらの方法で精米し、おにぎりにして食べるなどにより、収穫の喜びを感じてもらうことができた。 ・ JAの施設見学、体験などを通して、農業への関心を高めてもらうことができた。 |
| <p>4. 今後の予定</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度は対象学年を広げて実施する予定。 ・ 田植え、稲刈り以外は内容を変更して、畑の作付けも実施する。 ・ 新人職員の研修の一環として、全スクールの担任に位置づけ、積極的に取り組んでもらう。 |



田植え体験



調理体験

| | |
|----------|--|
| 1. 趣旨 | 子どもたちに生産者と一緒に農作業などを体験してもらうことにより、安心・安全な食材の大切さや生産者への感謝の気持ちを次世代へ伝えていくことを目的に実施。 |
| 2. 概要 | 地域の親子を対象に、トウモロコシ、枝豆などの植え付けから収穫、試食までの体験を実施。 |
| 3. 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 親子6組15名が参加。 ・ トウモロコシ、枝豆、スイカの苗の植え付けを実施。 ・ 畑の除草、野菜の茎の先端部分を摘みとる摘芯、人工授粉などの体験を実施。 ・ 大きく育ったトウモロコシなどを収穫し、試食するとともに、体験した農作業などを絵日記に書いてもらった。 |
| 4. 今後の予定 | ・ 次年度も同様の内容で実施する予定。 |



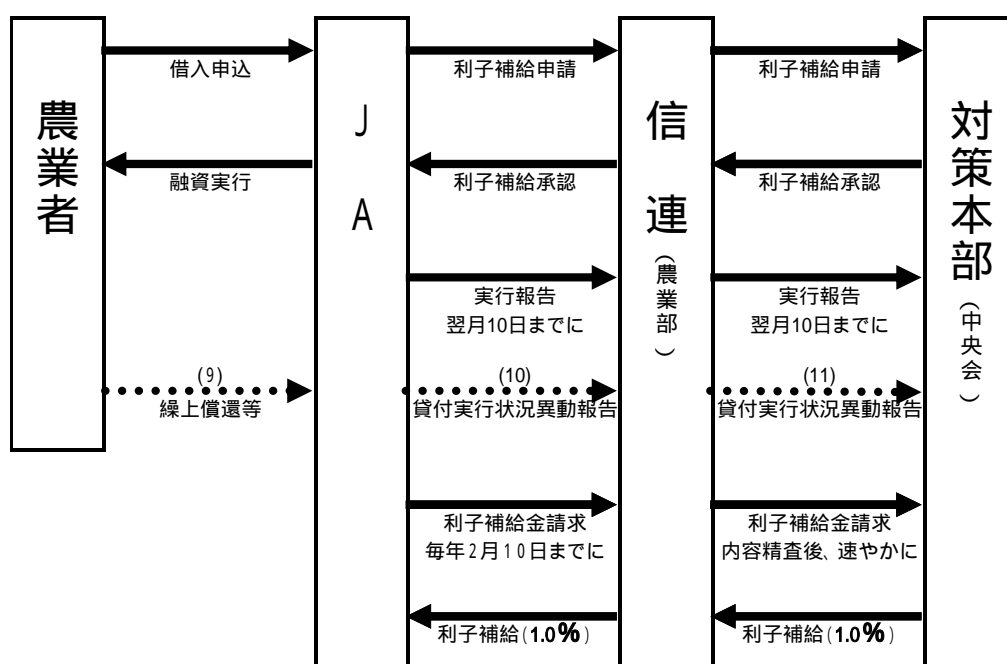
苗の植え付け体験



枝豆の収穫体験

| | |
|----------|--|
| 1. 趣旨 | 平成22年度より実施された戸別所得補償モデル事業に対応した商品として創設。交付金受取口座をJAに指定した農業者に対しメリットのある商品として、交付金受取額を限度に、原則無担保・無保証で利用できる農業資金。 |
| 2. 概要 | <ul style="list-style-type: none"> ○名称 / アグリマイティー資金（戸別所得補償対応） ○融資先 / 農業者 ○資金使途 / 農業経営に必要な資金で、戸別所得補償制度モデル対策の交付金が入金されるまでの運転資金 ○融資限度額 / 原則として、JA口座に入金される戸別所得補償制度モデル対策の交付金額の範囲内 ○融資期間 / 1年以内 ○保証および担保 / 原則として、無担保・無保証 ○融資形式 / 手形貸付、または特定当座貸越（極度額方式による当座貸越） ○その他 / 平成22年9月1日（水）から交付金入金までの期間、県連による利子補給（利子補給率年1.00%）を実施 |
| 3. 成果 | <p>県下26JAのうち、21JAで利用実績発生。</p> <p>平成22年度実行件数・・・737件</p> <p>平成22年度実行金額・・・870百万円</p> |
| 4. 今後の予定 | 平成23年度からの「農業者戸別所得補償制度」本格的実施に伴い、次年度も引き続き取扱いを実施。 |

「平成22年度緊急資金」利子補給事務の流れについて



| | |
|----------|--|
| 1. 趣旨 | 平成22年産米の猛暑等による品質低下等に伴い、資金繰りなどに影響が生ずる農業者に対して、必要な資金を融通することにより、農業経営の安定化に資することを目的として創設。 |
| 2. 概要 | <ul style="list-style-type: none"> ○名称 / 平成22年度緊急農業経営安定対策資金 ○融資先 / 農業者 ○資金使途 / 平成22年産米の品質低下等に伴い、農業経営上必要となる資金 ○融資限度額 / 個人：500万円 法人および団体：1,500万円 ○融資期間 / 短期：1年以内 長期：7年以内（うち据置期間2年以内） ○保証および担保 / 原則として新潟県農業信用基金協会の保証 必要に応じ担保・保証を徴求 ○融資形式 / 短期：手形貸付 長期：証書貸付 ○償還方法 / 手形貸付は一括返済、証書貸付は原則として元金均等（年1回）返済 ○取扱期間 / 平成22年10月8日（金）～平成23年8月31日（水） ○その他 / 県連による利子補給（利子補給率年1.00%）を実施 利子補給期間は貸付実行後2年間 |
| 3. 成果 | <p>県下26JAのうち、25JAで利用実績発生。</p> <p>平成22年度実行件数・・・1,455件</p> <p>平成22年度実行金額・・・1,698百万円</p> |
| 4. 今後の予定 | 平成23年3月に発生した長野県北部を震源とする地震等により被害を受けた農業者については、「平成23年地震災害等復旧支援資金」(平成23年4月創設)により、対応。 |